



本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導内容・指導法の工夫	校内における研究・研修の工夫	評価方法の工夫	家庭や地域との連携の工夫	小中一貫教育の視点
<ul style="list-style-type: none"> ◇各教科の学習の中で、自分の考えを互いに交流させることによって、さらに考えを広げ深める力を継続的に育成する。 ◇習熟に応じた指導や補充的な学習・発展的な学習を取り入れ、個に応じた指導の一層の充実を図る。 ◇地域の特性を生かしSDGsを意識した体験活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇年間指導計画・評価標準を見直し、授業における指導と評価の一体化を図る。 ◇2年生以上では、習熟度別算数指導を実施し、東京ベーシックドリルを活用するなど、個に応じた指導を実践する。 ◇モジュール授業を活用して、基礎的な学習内容の確実な定着を図る。 ◇4年生以上で教科担任制を取り入れ、児童理解と指導内容の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇研究主題「どの子にとっても分かりやすい授業の工夫～効果的なタブレット端末の使い方～」を基に、一人一人の理解状況や能力・適正に合わせたタブレットの効果的な使い方を追究していく。 ◇研究授業や教材準備、事後の振り返りの充実を図る。 ◇教職員によるICTスキルアップ研修や事例研修を行い、ICTを用いた授業力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇指導と評価の一体化により、PDCAサイクルの充実を図り、授業改善、学習改善につなげる。 ◇各教科では、授業ごとに評価すべき観点を整理し、評価計画に基づき、適切な評価をする。 ◇児童の学習意欲の向上を図るために、自己評価や相互評価を積極的に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇教育活動の様子や児童の変容等を保護者会や学校だより、ホームページ等を通して情報発信する。 ◇地域環境の特徴を踏まえ、公共施設や地域人材を活用した授業づくりの充実を図る。 ◇保護者、地域、学校評議員による外部評価を実施し、教育課程編成へ生かす。 ◇道徳授業地区公開講座も含め、学校公開日を年複数回設定し、保護者や地域に公開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇校区別協議会において、「目指す15歳の姿」を明らかにしたうえで、小学校と中学校の交流と相互理解の充実を図る。 ◇課題改善カリキュラムの検討、作成により、学びの連続性・系統性を追求する。